

学年	第一部の講演を聞いての感想	セアまりさん&盲導犬ベェベとのWSの感想	松本江理さん&聴導犬チャンプとのWSの感想	イベント前後で、障害者や補助犬への認識の変化は？
中1	<p>障害者の方でも趣味や好きなことを大切にしていることを知ってとてもすてきなとおもいました。また、盲導犬と機械との差がわからず質問しようとしていましたが、それは自分に合わせてくれることという話をされていた時にとても納得することができました。</p>	<p>現在ではこのような障害者向けのためのグッズやアプリが発達していることに驚きました。いつもはそういったことを知る機会がないので具体的にこのアプリではどういったことができるのかや、どういう風に使っているのかを知ることができとてもよかったです。</p>	<p>障害者の方のコミュニケーションツールは手話だけでなく最近ではスマートフォンも活用できるということがわかりました。文字をほぼ正確に起こしてくれるアプリなど障害者の方にも優しい世界が少しずつできているということに少しだけ触れられたような気がしました。</p>	<p>盲導犬について、人間の都合によって動かされてしまっている犬というあまりいいイメージではなく、かわいそうな犬という印象が少しありました。でも実際話を聞いてみるとそんなことはなく、オンとオフに分かれていて、このワンちゃんたちにもリラックスできる時間があるということを知れたことで、障害者の方と盲導犬の方の関係性の良さを知れました。</p>
中2	<p>盲導犬について、人間の都合によって動かされてしまっている犬というあまりいいイメージではなく、かわいそうな犬という印象が少しありました。でも実際話を聞いてみるとそんなことはなく、オンとオフに分かれていて、このワンちゃんたちにもリラックスできる時間があるととて、障害者の方と盲導犬の方の関係性の良さを知れました。</p>	<p>盲導犬がいることで、生活をサポートしてもらえるだけでなく、心の安心ともなっているのがとてもいいなと思った。目が見えなくなってしまう、何も出来ない、これからどうしようとマイナスに考えるのではなく、ポジティブシンキングで新しいことにチャレンジする姿勢が素敵だなと感じた。全ての方が平等に楽しめるようなツール(字幕めがね、タッチメモなど)が開発されていて、テクノロジーの別の世界を発見することが出来たと思う。</p>	<p>今までできていたことが突然できなくなってしまうことのショックは計り知れないはずなのに、コミュニケーションを今まで以上に多くとったりしている姿勢が素敵だなと感じた。例えば言葉が話せなくても、ジェスチャーやテクノロジーなど何らかのツールを通すことで、コミュニケーションをとることができることを学んだ。</p>	<p>障害者の方は見た目で見分けることができると思っていた。けれど、松本さんを見た時、スムーズにコミュニケーションがとれていたため、健常者の方だと思ってしまった。お話を聞いて、障害者と認識されないことで困ることもあると知ったから、積極的にサポートすることが大切だと思った。会話をするためには言葉が必要不可欠なツールだと思っていた。けれど、伝えたいという思いがあれば、ジェスチャーやテクノロジーなどの様々なツールを通して会話することも出来ると学んだ。また、2人ともできなくなったことをマイナスにとらえるのではなく、新しいことにチャレンジしている姿勢がとても素敵だなと思った。だから、最初から私はできないから…とマイナスに考えるのではなく、まずはチャレンジしてみる姿勢を意識していこうと思った。</p>

学年	第一部の講演を聞いての感想	セアまりさん&盲導犬ベェベとのWSの感想	松本江理さん&聴導犬チャンプとのWSの感想	イベント前後で、障害者や補助犬への認識の変化は？
中2	<p>補助犬はあまり見かけることないけれど全国では多くいると思っていた。けれど、全国で800頭くらいしかいなくてびっくりした。セアまりさんと同じように私は盲導犬や聴導犬の訓練は厳しくて大変そうだと思っていた。けれど、補助犬は飼い主さんと楽しくて幸せな人生を送っていていいと思った。</p>	<p>盲導犬は道の誘導をしてくれる。けれど、信号の色が見えないのは確かに不便。自分の耳に頼って渡ってみるしかないと思って、信号が変わったときに音を出す信号機をもっと設置したほうがいいと思った。</p>	<p>聴導犬は全国で数が少ないと知ってびっくりした。音が鳴っている場所まで正確に連れて行けるのもシンプルに見えるけれどすごいと思った。</p>	<p>あまり変わらなかったけれど知識が増えた。</p>
中2	<p>私は「盲導犬がすごいのではない。パートナーとの2人の協力が素晴らしいのだ。」という言葉が特に印象に残った。私自身、盲導犬は利口でなんでもできるのだと感じていたが、盲導犬とパートナーとなっている人とのコミュニケーションがあるからこそその素晴らしさなのだ気づいた。</p>	<p>まりさんとの交流によって、いつでも他の人の手助けをできるアプリがあるということや、タッチメモという特殊なペンがあることを初めて知ることができた。多くの人の便利のために世の中の技術を使っていることを実感し、とても面白かった。</p>	<p>私は音声言語の世界に住んでいて、えりさんは音声言語の世界から別の世界になったとおっしゃっていた。私は音声言語の世界だけしか知らなかったため、コミュニケーションも音が大切だと思っていた。しかし、今回の交流のおかげで、ジェスチャーやくちびるの動き、アプリなどの活用によってコミュニケーションができるのだとわかった。そのため、コミュニケーションは「伝えたい」という気持ちが1番大切なのだとなり、とても素敵だと感じた。</p>	<p>私はイベント前、勝手に障害者のことを「よくわからないから、自分はどうしたらよいのかもわからない。自分が関わっては迷惑なのかもしれない。」などと偏見を持っていた。しかし、今回の交流から、「助けたい 話したい」という気持ちは大切にしてよく、障害者の人も嬉しいのだとわかり、とてもうれしく感じた。補助犬のこともあまり知らず、興味があまりなかったが、とても賢くて驚いたので、訓練方法などとても興味が湧いた。</p>
中2	<p>補助犬がその人の全てではないということ。補助犬がその人のある1部だけを支えている存在だということ。</p>	<p>盲目のせあまりさんが、彼女なりに自分の人生の楽しみ方を見つけていたことに心を打たれました。盲導犬と共に生きる生活、目の見えない世界で活躍するせあまりさんの在り方はわたしにとって人生の勉強にもなった気がします。</p>	<p>松本さんのお話を聞いていて、人にはどうやれば自分の意見が伝わりやすくなるのか、自分達がこれから生きていくなかで多種多様な人々とどうやって関わっていくべきなのか、を教えてくださいました。</p>	<p>私は補助犬の区別があまりなかったことので、それぞれの犬達がどのように生きているのか、助けているのかを知ることが出来ました。</p>

学年	第一部の講演を聞いての感想	セアまりさん&盲導犬ベェベとのWSの感想	松本江理さん&聴導犬チャンプとのWSの感想	イベント前後で、障害者や補助犬への認識の変化は？
中3	補助犬にも3つ種類があること。	科学技術の発達が私たちの生活をより便利にしていることが特に印象に残りました。	交流の中で、私たちが話すことは一つの「言語」に過ぎないことであり、多言語が話せない	補助犬は「おりこう」な犬ではなく、タグを外せば普通の犬のように過ごす、障害者のパートナーである、という認識に変化しました。
高1	補助犬は障害者の全てを助けるわけではなく、行動を行う上で必要な情報を教えてくれる犬、いわばパートナーなんだということがわかりました。	音に頼ったり、盲導犬に目の役割として担ってくれたりすることを知れました。視覚がないことで自分の周辺が分からなかったり、日常生活が充実しにくかったりするのかなと勝手ながら思っていました。ですが、セアまりさんはそんなことはなく、自分の趣味を行なってらっしゃるので目が見えなくても、挑戦すればやりたいことはたくさんできるんだなと感じました。だからこそ、自分もやりたことにはどんどんチャレンジしていきたいなと思うことができました。	耳が聞こえない人でも手話をしなくても様々なツールを用いてコミュニケーションをとっているんだなと思いました。私たちが当たり前に使っている「声」も決して当たり前ではなく、ただ人と話す上でのコミュニケーションをする1つの手法なんだなということを感じることができました。つまり、人間は言葉でも手話でも文字でも話すことができるかと改めて感じる事ができました。	イベント前は障害者の人は「大変そう」と思っていたけれど、確かに「大変そう」というのは変わらないけれど、それでもどこか不自由さはあっても諦めないで自分がやりたいことに熱心でいるのはすごいなと思ったし、そこは自分が想像していなかったところでした。その上、最初は補助犬は全てを手助けするのかなと考えていましたが、イベント後には障害者の側にいて物事を教えてあげる役割、いわばパートナーとして存在してくれているんだなと認識することができました。
高1	私はそもそも盲導犬しか知らなかったため、聴覚犬や介助犬について初めて知りました。また、それぞれの補助犬の役割が曲がり角を伝える、音が鳴ったこととなった場所を教えてくれる、などのようにシンプルであることも初めて知りました。	セアまりさんには日常生活で実際に行っている工夫を教えてくださいました。例えば音声を保存し読み上げてくれるシールや匿名で手助けしてもらえるアプリ、映画や本の音声ガイドなどについて教えてくださいました。ちょっとした工夫が生活をより豊かに、よりカラフルにできるのだと改めて感じました。	松本江理さんには伝えることについてお話しして頂きました。街中で困っている聴覚障害者の方がいた場合の手助けの方法を知ると同時に、言葉は伝える為の一種のツールに過ぎないのだと再認識させられました。例えば聴覚障害者の方に言葉が伝わらなくても、ジェスチャーと組み合わせたり、文字を使ったり、便利なアプリを活用したりするなど、他の手段を使い伝えられれば良いのだとわかりました。	イベント前は「補助犬」と聞くと、ペットで飼われている犬とは少し違い、特別な訓練を受けていてユーザーさんをサポートするというイメージを抱いていました。しかし補助犬ユーザーさんの生の声を聞いて、補助犬という名がついているものの、普通のペットとしての犬の延としてユーザーさんをサポートするというイメージに近いのではと感じました。だからこそ、補助犬はユーザーさんの日常生活の最低限のサポートを自然にしながら癒しを与えることができ、そこが人間にはない補助犬の良さなのではと思いました。

学年	第一部の講演を聞いての感想	セアまりさん&盲導犬ベェベとのWSの感想	松本江理さん&聴導犬チャンプとのWSの感想	イベント前後で、障害者や補助犬への認識の変化は？
高1	<p>考えてみれば当たり前のことですが、補助犬はナビではない、ということに驚きました。視覚障害者の方は横断歩道を盲導犬に助けられながら感覚でわたっているということです。</p>	<p>セアまりさんは自分の興味があることに挑戦をしていると感じました。私たちからすると「目が見えないから～～なんてできない」と考えてしまいますが、そのような壁を無くして「不可能なことはない」と感じられました。また、視覚障害者の方を支援するアプリも教えていただきました。アプリなどを使って気軽に直接サポートもできることを知れたので、調べてみたいと思いました。</p>	<p>聴覚障害の方は見た目ではわからないので私たちが想定しないことで困ることがあるということを知りました。特に、放送などに気づけないため、困っているということに当事者の方が気づけず、周りもわからないということは考えたことがありませんでしたが、頻繁に起こる問題であると感じました。今回、聴覚障害の方へのサポートの方法なども知れたため、今後そのようなシチュエーションになったときには活用したいです。また、実際に聴導犬がサポートをする姿は見たことがなかったため、印象に残っています。様々なことがデジタル化している現代でも(補助犬に限らず)機械には代えられない良さがあるということを考えました。</p>	<p>イベント前には障害者の方には身近なイメージを持っていませんでした。また、無意識に「補助犬がいるから大丈夫だ」と感じてしまっていたとも思っています。しかし、イベントを通じて気づいていなくても障害者の方は身の回りにもいて、仮に補助犬がいたとしても助けが必要であることを知りました。また、補助犬はなんとなく「仕事」をしているイメージがあったのですが、ハーネスを外したら普通のかわいい犬でした。その切り替え能力に驚きました。補助犬も普通の犬だということを知ったことで以前よりも優しい目(以前はやはり「補助犬」というイメージが強かったので「犬」というよりも「仕事をしている」という目を向けてしまっていたと思います)で見ることができたと感じました。</p>